



令和5年度 果樹情報 特別号
 ～ モモハモグリガの防除対策 ～
 (令和5年5月17日)
 福島県農林水産部農業振興課



福島県病害虫防除所より5月11日付けで「令和5年度病害虫発生予察情報注意報第1号」が発表されました。

モモハモグリガの越冬世代の誘殺は、平年より早く、かなり多い状況となっています。

モモハモグリガの被害増加を防ぐため、第2世代幼虫を対象に効果のある薬剤を適期に使用しましょう。

1 モモの生育状況

果樹研究所におけるもも「あかつき」の満開は、4月5日で平年より14日早く、4月27日には幼果期に入っています。

今後の気温が平年より2℃高く経過した場合、「あかつき」の硬核開始日は、平年より9日早い5月31日頃と予測されています(令和5年5月14日現在)。

2 モモハモグリガの発生状況

モモハモグリガの越冬世代成虫は、果樹研究所のフェロモントラップ誘殺調査において、3月22日に初確認されました。誘殺盛期は、4月2半旬頃で平年より早く、誘殺数はかなり多い状況となっています(図1)。

病害虫防除所による5月上旬の発生調査では、もも新梢葉における発生ほ場割合は、福島地域、伊達地域ともに平年(参考：5月下旬)に比べかなり高く、被害程度が大きいほ場が多くなっています(図2)。なお、県北地域以外のもも園においても、本種の被害が既に発生していることから、今後の被害拡大に注意する必要があります。

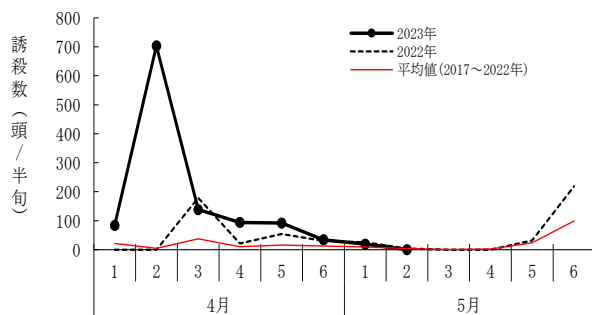


図1 フェロモントラップにおけるモモハモグリガの誘殺状況 (農業総合センター果樹研究所)

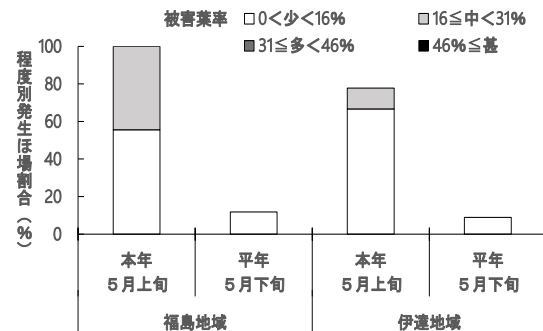


図2 もも新梢葉におけるモモハモグリガの被害状況 (県北地方、品種「あかつき」18ほ場)

3 防除対策

(1) 複合交信かく乱剤が未設置のほ場では、直ちに設置を行いましょう。

(2) 薬剤防除は、本種の発生に合わせて適期に実施しまししょう。本種第2世代幼虫の平年の防除適期は6月10日頃ですが、本年は発生が早まっています(写真1、2)。

2週間気温予報(令和5年5月15日付け仙台管区气象台発表)によると気温は平年並から高い見込みで、農業総合センター果樹研究所における第1世代成虫の誘殺盛期は、5月5半旬頃と予測され、第2世代幼虫の防除適期は5月6半旬頃と推定されています(表1)。

**モモハモグリガ被害の増加を防ぐため、
効果のある薬剤を適期に散布しまししょう！**

(3) 本種に対して効果の高い薬剤は、アセタミプリド水溶剤（商品名：モスピラン顆粒水溶剤）及びスピネトラム水和剤（商品名：ディアナWDG）です（令和4年度参考となる成果）。使用基準を遵守して適切に使用してください（表2）。

葉当たり3頭以上の被害を受ける（写真3）と落葉しやすくなるので、確実な防除により密度低下を図りましょう。

表1 果樹研究所におけるモモハモグリガの防除時期の推定(令和5年5月15日現在)

今後の気温予測	第1世代誘殺盛期	第2世代防除適期
2℃高い	5月25日	5月31日
平年並	5月27日	6月3日
2℃低い	5月30日	6月7日

起算日：4月7日（演算方法は三角法）

表2 モモハモグリガ防除薬剤の農薬使用基準

薬剤名	希釈倍数・使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
ディアナWDG	5,000倍	散布	収穫前日まで	2回以内

注) 登録内容は令和5年5月1日現在。希釈倍数・使用量の下線は試験研究成果に基づくもの。令和4年度参考となる成果 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/566396.pdf>



写真1 モモハモグリガの被害葉
(写真提供：病害虫防除所)



写真2 モモハモグリガ成虫
(写真提供：農業総合センター果樹研究所)



写真3 モモハモグリガ成虫
(写真提供：農業総合センター果樹研究所)

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、参照してください。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬の散布は使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下の URL より他の農業技術情報等をご覧ください。)

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>